

野田村支援・交流活動報告（2011年9月25日）

9月のポスト瓦礫撤去等ボランティア・交流活動の2回目は、「塩の道を歩こう会」に参加するグループと、弘前市のNPO団体「動こう津軽！」主催の「移動おもちゃ館」サポートグループの2つに分かれて活動しました。参加者は、弘前大学学生9名、市民7名、教員1名の計17名で（現地合流の3名を含む）、途中の「道の駅久慈」で、野田村からの参加者と合流して、バス2台で「塩の道を歩こう会」のスタート地点へ向かいました。



「道の駅おりつめ」にて



「塩の道を歩こう会」スタート地点

・グループ1：「塩の道を歩こう会」（この部分のみ執筆：南部真人）

僕は「塩の道を歩こう会」という企画に参加しました。弘前からは10人、全体では50人ほどおり、4歳の子供から80代の方までと年齢層も幅広く、老若男女みんなが楽しめる企画でした。「塩の道」というのは、昔野田村の海岸でとれた塩をベコ（牛）に乗せて運ぶ際に歩いた道のことをいうらしいです。僕を始め多くの人が「塩の道」と聞いて海沿いの道なのかと思っていたら、最初から最後までずっと山道でした。

バスでスタート地点まで行くとみんな準備運動を行い、山道をひたすら歩きます。コースは全部で10キロあり、道中では栗やドングリ、ヤマブドウなどがなっていました。野田村の方もたくさん参加されており、今までの活動で知り合った方もたくさんいました。村の人とゆっくり話せることは普段なかなかなかったのですが、今回は約2時間以上もただただ歩いていたので震災当時の話もより詳しく聞くことができましたし、たくさんのお話をすることができました。

塩の道を歩き終わるとバスで「アジアの広場」というところに移動しました。この日は「アジアの広場感謝市」というものが行われており、ここでお昼ご飯を食べることに。出店が何店か出ていて、なんと手打ちそばと豆腐田楽は無料。その他にもその場で塩むすびを握って食べました。定期便で活動をしていたときにお昼ご飯を食べにっていた「かまどのつきや」も出店していて「しっとぎ」を売っていました。これもおいしかったです。

今回の道は先日の台風の影響で本来の道ではなかったらしいですが、たくさん交流ができたのでとても充実していました。おいしいものもたくさん食べることができましたし、とても楽しい一日を過ごすことができました。



・グループ2：「移動おもちゃ館」サポート

「塩の道を歩こう会」を見送った後、野田村へ向かい、お菓子店「まるきん」で昼食を購入。店内では、震災後の付近の様子を撮影した写真の数々を目にすることができました。

昼前に野田中学校グラウンドの仮設住宅集会場に到着。しかし、鍵が閉まっていた中に入れず、見かねた住居者の方のご厚意でベンチをお借りし、屋外で昼食をとりました。そして、仮設住宅をほぼ一軒一軒回り、「移動おもちゃ館」のチラシ（裏に野田村の子どもたちの参加した弘前卍フェスティバル稚児行列の新聞記事の写しを添付）を配布しました。昼時にご迷惑になるのではないかと躊躇されましたが、いずれのお宅でも元気に快くチラシを受け取っていただいたうえ、数名からは「弘前に呼ばれて花火を観ました」などとお礼を言われました。128世帯分の仮設住宅には、空室が散見されたほか、同日開催の「アジアの広場感謝市」におそらく出かけておりご不在のお宅がいくつかありました。ご高齢の一人暮らしで耳が不自由なため対応の難しい方もいらしたのではないかと推測されます。



野田中学校グラウンドの仮設住宅



仮設住宅でのチラシ配布

1時間ほどかけてチラシを配り終えて集会場に戻ると、「動こう津軽！」主宰の三上さんと保育士3名ユニット「ちゃかしっこ」（津軽弁であわてんぼう・おっちょこちょい）が到着したところで、しばらくして社会福祉協議会職員の方に鍵を開けていただきました。

13時30分の「移動おもちゃ館」開始前から数人の親子連れが来場し、ブロック・積み木遊びで打ち解けた後、「ちゃかしっこ」のステージ（？）が展開されました。さすがはプロの保育士さん、運動、ゲーム、歌と演奏、紙（ホワイトボード）芝居で子どもたちを熱狂の渦に巻き込み、お母さんたちとそのまたお母さんたち（？）も喜んでおられました。



保育士ユニット「ちゃかしっこ」のステージ



ゲームに駆り出されたボランティアたち

「移動おもちゃ館」は大成功で、三上さんと「ちゃかしっこ」の皆さん、お疲れさまでした。弘前からのボランティアは、後片づけなどをお手伝いしたほかは、子どもたちにかえって遊ばれたような感じでしたが、少しでもお役に立てたのであれば良かったです。

15時には「塩の道を歩こう会」グループを乗せたバスが集会場近くに到着したものの、「ちゃかしっこ」のアンコールステージが続き、バスに合流したのは15時30分でした。



サポート(?)を終えたボランティアたち



予定で一杯のホワイトボード

帰り際、集会場の入り口のホワイトボードをふと見ると、9月の予定は様々なイベントでほぼ埋まっていました。様々な楽しみ、運動や学習メニューがあるのは良いことですが、仮設住宅の方々がかえってお疲れにならないよう、関心ある企画に気楽に参加していただける雰囲気作りや、野田村の方々の活動に加わることも重要ではないかと感じました。

帰りのバスでは、「塩の道を歩こう会」参加者から、瓦礫撤去ボランティアで知り合った野田村の方と再会してじっくりお話を伺うことができた、昼食をいただいていた「かまどのつきや」のおかみさんに「アジアの広場感謝市」でお会いできて交流を楽しめた、今年を総括する一文字は「災」ではなくて「絆」であれば良いと思う、といった感想が聞かれました。「移動おもちゃ館」サポート参加者からは、ゆったり野田の町を見ることができて良かった、初めて仮設住宅を回りとても貴重な経験になった、空室の多さにびっくりした、弘前の秋冬の祭りにも仮設住宅の方に来ていただきたい、子どもがはしゃいでお母さんたちも嬉しそうだった、子どもとあまり積極的に関われなかったことが反省点として残る、などの声が聞かれました。見知らぬ子ども、とりわけ赤ん坊と遊ぶことは、子育てを経験しない大学生にとって難しかったかもしれませんが、良い経験になったことでしょう。

私自身、県外の瓦礫撤去等ボランティア受け入れ休止後の活動は初めてで、これまでとの活動とは内容はもとより疲れ方などに違いを感じました。「塩の道を歩こう会」参加者からは、野田村の方々からかえって元気をいただいたという声があり、仮設住宅回りと子どもたちとの遊びでは、かえってこちらがしっかりしなければ、と自覚させられました。東日本大震災から半年を経過して、野田村の方々との関係では、第一段階の震災被害を直接取り除く手助けをする力仕事が、さしあたり終わりつつあります。第二段階では、野田村の方々との人間的なつながりを地道に広げていき、交流を通じてお互いに良い影響を与えあえる関係を築いていくことが、継続的な課題になるのではないかと思います。

(担当 飯考行、南部真人)